

書 燈



photo/Takeshi asano



(右) 名谷図書館外観
(左) 名谷図書館内

「go to 図書館！」

林 泰三

図書館に赴任して2か月弱、これまでもネット予約や予約図書自動受取機などを利用したことはあったが、現状如何に多くのサービスを提供しているか、恥ずかしながら初めて知ることになった。多くの予約図書受取コーナーの設置、商用等データベースや電子図書館の供用、読書バリアフリーに対応したサービス、夥しい数の行事・イベントや学校園と連携した取り組み、周辺他都市等の図書館との相互利用等々、実に様々なサービスが用意されているのである。

一方、世の中は未だコロナ禍を脱したとは言い難く、漸くワクチン接種が進められている状況である。この社会的混乱は、図書館サービスにも影響を与えており、一定の利用制限を設けるなど、本来のサービスの提供が満足に実施できていない。

今求められるのは、図書館においても、今後のwithコロナ、afterコロナの時代に対応したサービスの在り方を模索し構築していくことであろう。

DX(デジタルトランスフォーメーション)の流れは、企業・官公庁にとどまらず、教育の現場でも導入が進められようとしており、一方で東京一極集中から地方へ移住する試みもあり、郷土の魅力をもっと発信することも重要な取り組みとなってきた。図書館サービスもそれらに応じたデジタル技術の更なる導入やコンテンツの充実など、更なるレベルアップ

を目指すことが必要であろう。

更に、図書館の存在は、まちの文化レベルを高め、まちの品格を印象づけるものでもあると思う。現在、地域館のリニューアルも進めているところであり、市民が憩い・集い、有意義な時間と空間を提供する場として、図書館そのものが、まちのステータスと成り得ることも考えられる。

図書館の未来には、大きな期待が寄せられるところではあるが、これを支え具現化するの現場のスタッフである。冒頭いくつかの図書館サービスを列挙したが、実は一番印象深かったものは、司書達の仕事に対する熱い思い—彼らの助言が利用者に役立つことが何よりの喜びであり、やりがいを感じる—である。これまでレファレンス、パスファインダー等を活用したことはなかったが、そうか気軽に相談に応じてもらえるのか、だったら結婚式で贈る言葉で悩んだときには助太刀してもらえていたかもしれないと残念に感じた。

コロナで利用が落ち込んだ現状ではあるが、この素晴らしいスタッフに支えられている図書館の魅力を、今一度、多くの市民に知ってもらい、活用を促すための更なる創意工夫が必要でないかと感じている。

まさに「go to 図書館！」を図るべき時機が到来しつつある。
(中央図書館長)

名谷図書館開館

西山 智子

1. 名谷図書館整備の経緯

名谷図書館は、市の掲げる「リノベーション・神戸」第2弾の計画内にある名谷駅前空間の活性化プランのひとつとして位置付けられ、折しも開館40周年を機にリニューアルを予定していた大丸須磨店4階フロアの一面に整備する運びとなった。名谷エリアのリノベーションの先陣を切るものであり、約1年間という慌しい準備期間を経て、令和3年3月24日に開館した。所蔵冊数は現在約5万冊、収蔵可能冊数は7万冊である。

北神図書館に続き、1つの区に2館目となる本図書館は、全くの新館ということもあり、全館一律の休館日から外し、第1月曜日の週を除き週休を火曜日とした。これは、例年行っている市民満足度調査や、整備に先立ち実施した周辺地域対象のアンケートにて寄せられた休館日についての希望を考慮したものである。

2. コンセプトと内装について

設計・施工は大丸須磨店の改装との統一性が必要であることから、同工事を行っている株式会社エムクリエイツに担ってもらうこととなった。同社は地元企業ではないが、デザインやコンセプトワークに、近隣で活動するデザイナー石丸耕平氏（株式会社ブラーリー）やイラストレーターの山内庸資氏らが起用され、我々も含めたいわば地元チームでの図書館整備となった。

前述のアンケート結果も参考にし、話し合いを重ねる中で、木材を多く用いた温もりある空間の中に多様な座席を配置し、子供連れの方やひとりで静かに過ごしたい方など、誰もがいつでも気軽に立ち寄れる場所となることを目指した。このコンセプトをひと言で表す言葉の検討を重ね、最終的に“TOMARIGI（とまり木）”という語を選択した。日々の暮らしの中で、仕事や学校帰りに、本を楽しみ憩える空間。子供たちが大きくなって街を離れても、帰ってきたときにはまた訪れて、ひと息つけるような空間。そんな温かな場所になるようにとの願いを込めている。地元ならではのちょっとした遊び心として、館内イラストに名谷の子どもなら誰もが知っている、とある“ソウルフード”をあしらってもらっている。

また、百貨店内にあるということで、テナントとしての見た目も重視した。外面をガラス張りにし、休館日も館内が魅力的に見えるよう、照明に工夫をしたほか、図書をフェイスアウトできるような仕掛けやいくつかの常設展示架も用意した。ひとときわ目

を引く入り口前の丸太ベンチは、六甲山小学校のヒノキの木を組んだものである。木材のコーディネートおよび施工はSHARE WOODS 代表の山崎正夫氏によるものである。

3. 広報について

名谷図書館の整備については、その概要決定時および開館直前にプレス発表を行い、各図書館や近隣の地下鉄駅など関係各所でのポスター掲示を行った。また、名谷駅では広報課の「神戸うわさプロジェクト」の吹き出しを構内に設置したほか、西神中央方面行のホーム階段を本棚に見立て、本のイラストや図書館に誘う惹句とともにレイアウトし、開館を告知した。いずれも非常に目を引くデザインで、駅を利用する地元の方々に広く知ってもらえたのではないだろうか。大丸須磨店の広告にも図書館を掲載していただき、普段行っているよりも幅広く広報ができたと思う。



(名谷駅構内の神戸うわさプロジェクトの吹き出し)



(名谷駅の西神中央方面行のホーム階段)

4. 特徴的な機能・設備について

<座席管理システム>

名谷図書館では、神戸市内で初めて「座席管理システム」を導入した。決して大きな図書館ではないが学習席への要望は非常に高く、限られた席を平等に有効利用してもらうため、予約時間内での使用とした。1日に1人あたり最大180分まで、1回の予約につき30分・60分・90分の時間を選択し予約する

システムである（まん延防止等重点措置下の現在は新型コロナウイルス感染症対策として 90 分の枠は休止）。今のところインターネットからの予約はできず、館内の専用端末により、当日の即時利用、または満席の場合は次に空く席の予約をすることができる。なお、予約対象の席種は「個人ブース席」「パソコン使用席」「カウンター席」および定員 4 名の「グループ学習室」である。予約席数は、スツール・ソファや児童用を含めた座席全体の約 3 分の 1 である。

<館外のオープンスペース>

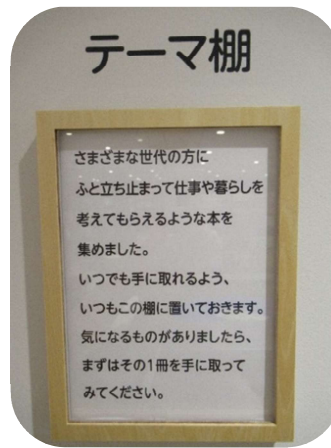
図書館エリアのほかに、エスカレーター横の 2 か所のスペースも図書館の一部として整備することとなり、それぞれ「キッズコーナー兼多目的コーナー」「新聞コーナー」とした。これらのスペースは飲食可能としている。同フロア内のカフェ等からテイクアウトした飲み物を手に本や新聞を読んだり、自由なオープンスペースとして気軽に待ち合わせに使ったりしてもらえればと思う。多目的コーナーは図書館行事での使用も想定しており、今後の指定管理者の企画に期待している。

<その他>

その他の設備としては書籍消毒機、音声読み上げ機能付き拡大読書器、オンラインデータベース、一般書コーナーのほぼすべてをカバーする公衆無線 LAN を備えている。

5. テーマ棚について

名谷図書館では、テーマに沿って選書し常設配架する「テーマ棚」を設けた。多世代にわたる利用者層を想定し、子育て世代、勤労世代、高齢者対象にそれぞれに数個ずつ、たとえば「初めての子育て」「お仕事のキホン」「人生後半を生きる」など、開館時点で計 19 テーマを設定した。これは、利用者アンケート等から聞かれる「図書館には読みたい本がない」という声に応えるための試行と考えている。その時々で手に取ってもらえそうな本を、ロングセラーやベストセラーを含め貸出しない図書として常設し、好きな時に手に取ってもらうことができると同時に、図書館側からの各世代それぞれの“課題”に寄り添い、解決のヒントとなる本を提示するものである。コロナ感染症対策として座席の使用を休止している期間もあったため、まだじっくりと利用してもらっているとは言えないが、どのテーマも興味を持ってご覧いただけているようである。今後テーマの精査や入れ替えを行い、読んでみようと思えるような魅力のある棚として維持してもらいたいと思う。



(テーマ棚の様子)



6. 開館準備と開館当初の運営

名谷図書館の竣工は令和 3 年 1 月 21 日である。完成検査と微修正を経て、2 月から開館準備に入った。3 年度からの運営者であるシダックスヒューマンサービス大新東株式会社に開館準備および 2 年度内の窓口業務を委託した。開館準備と並行して利用の事前登録窓口を約 2 週間設けたところ、合計 2,948 人の登録があり、地域での期待の高さが窺えた。開館に先がけて行ったイベントについては別記の通りである。整備の最終段階では地元の方々に内覧いただき、開館日には記念セレモニーを行った。当初の混雑が予想されたため、コロナ感染症流行下での安全面も考慮し、3 月末までは入館整理券を配布。1 時間当たりの入館者数上限 150 人の完全入替制とした。また、入替時には館内の消毒も行った。大丸須磨店や運営会社の他部署から応援もいただき、幸い大きな混乱もなくスタートすることができた。



(開館時の名谷図書館)

7. 終わりに

名谷図書館は今、開館後初めての夏休みを迎えている。まだまだ忙しい運営だと思うが、駅前の百貨店内にあるという恵まれた立地条件を生かし、来館される方に読書を通しての愉しみをどれだけ伝えていけるか、我々も協力しながら取り組みたいと思う。

この図書館が年月を経たときに、地域の人たちにとって本当に身近な、日常のひとこまになってほしいと願っている。

(総務課担当係長)

待望の名谷図書館開館

㈱大丸松坂屋百貨店 大丸須磨店
店長 地的紀子

令和3年3月24日(水)、「神戸市立名谷図書館」が大丸須磨店4階にオープンしました。当日朝のセレモニーには神戸市の久元喜造市長を筆頭に、議員の方々、連合婦人会長様など、地域の名士の方にお越しいただき、多くのメディアの取材も入り、とても華やかな式典となりました。

当日朝10時の開館前には、大勢の方々が並ばれましたが、一番乗りされたのは、朝7時にお越しになった小学校4年生の女の子(当日は6年生以外の市立小学校生は休み)だったということに、図書館が名谷地区に新たにオープンする大きな意義を感じました。その後も、新型コロナウイルス感染拡大の時期と重なりながらも、一日1,000人を超える方が来館されました。特に、未就学のお子様とご家族の姿が増え4階フロアが賑やかになりました。

図書館は木材とガラスを使った温かみあるオープンな空間で、木材には六甲山の間伐材を使用するなど、環境にも配慮された新しい取組みとなっています。毎日、幅広い年代の方が読書を楽しむ姿を見ることができ、図書館が与える生活の「豊かさ」を実感しています。私達のストアコンセプト「須磨のくらしの真ん中に。」に近づくよう、図書館と共に歩みを進めて参りたいと思います。



(左より)
玉森須磨区連合
婦人会会長
久元市長
壬生市会議員
地的大丸須磨店店長)

名谷図書館の開館に寄せて

須磨区長 片山 昌俊

令和3年3月24日、春の穏やかな日差しとともに名谷図書館が開館しました。

須磨区で2か所目の市立図書館であり、神戸初の、全国的にも珍しい商業施設内の図書館に、開館前より区民からの要望が多く寄せられていました。

名谷図書館は、名谷エリアの人口誘因をめざす活性化プランの一環として整備され、ファミリー層の利用を意識したデザイン・機能となっています。館内は、一般書コーナーと児童書コーナーを離して設置することで静かな空間と多少の賑わいを許容しあえる空間になっています。他にも子どもが靴を脱いで読書できるマット敷きのスペースや、図書館エントランス前にはゆっくり過ごすことができる新聞閲覧コーナーがあります。

開館後は、学生や子育て世代をはじめとした幅広い年齢層の方が利用しており、仕事帰りや買い物ついでの方、週に何度も来館する方など、多くの方に親しまれています。

館内の提供座席数の一部制限などコロナ禍により利用が制限される部分もありますが、名谷図書館が地域の愛される図書館となるよう、関係各位には引き続きご協力賜わるようお願い申し上げます。

プレオープンイベント

調査相談係 藤澤 清隆
市民サービス係 布川 沙紀

3月14日(日)には、名谷駅前広場でプレオープンイベントが開催された。12月より指定管理者と中央図書館とで準備を進め、(1)名谷図書館内で使用される椅子づくりワークショップ、(2)INAC神戸選手のご協力をいただいたのビデオメッセージ放映、(3)自動車図書館の展示、(4)絵本展示コーナーとシダックスヒューマンサービス大新東スタッフによる絵本読み聞かせ、(5)須磨区役所と共同で「リノベーション神戸・名谷活性化プラン」パネル展示を行った。

ワークショップは内装を手掛けたエイムクリエイツが講師となり、神戸芸術工科大学の学生スタッフのサポートのもと、3回実施された。参加者は家族で協力しながら楽しそうに制作していた。24日の開館後には、椅子を目当てに来館した参加者もいた。

ビデオメッセージ放映とパネル展示には、傍らを通る買い物客なども見入っていた。また、自動車図書館の展示は普段図書館を利用していない層へのよいPRになり、車内見学や足を止めて写真を撮る人も多かった。絵本の展示や読み聞かせも親子連れで大いに賑わい、プレイベントは盛況のうちに終了した。

多世代の居場所としての図書館

名谷図書館長 芳賀 由紀子

事前登録の状況や、開館後の来館、問い合わせからも住民の方の期待値が高いと感じるなか、4月から館長職を担うことになりました。

コロナ禍での開館になり、自習席にはアクリル板が設置され感染症対策をした上で、市内初の座席管理システムを導入していますが、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言のため、開館から7月までの間で、通常利用ができたのはひと月ほどだけでした。

そんな短い期間であっても予約しながら座席を使用することが知られるようになりました。近隣の中高生を始め多くの方に利用いただき、放課後や、夏休みに入ってから、全席埋まるということも珍しくなくなり、大学生やビジネス利用と思われる層、高齢の方にも利用いただいています。上限時間等予約に制限があることから、早い者勝ちになりがちな座席利用が、開館直後に来館できない方でも使用でき、また、グループ学習室も学

習利用だけでなく、打合せ利用と見受けられる方もおられました。運用面での課題もありますが、幅広い年代に利用いただける「TOMARIGI」のコンセプトに沿った利点を感じております。

開館準備中でまだ空っぽのスチール書架が並ぶ館内では、当初から木の香りが漂い、温もりのある空間が広がっていました。ガラス張りのせいか狭さを感じず、建物内に流れる放送やオープンスペース、隣接のカフェでの寛ぎの雰囲気も伝わり、来館者数の多さからくるざわめきが強く感じられる時がありながらも、静かさを求められる個人ブース席付近は、静寂が程よく保たれており、設計やデザインの妙を感じます。

当初から大丸須磨店の方にもご協力を賜り、既にいくつかのイベント参加もさせていただきました。まったく違う視点からの図書館の良さを教えていただいています。

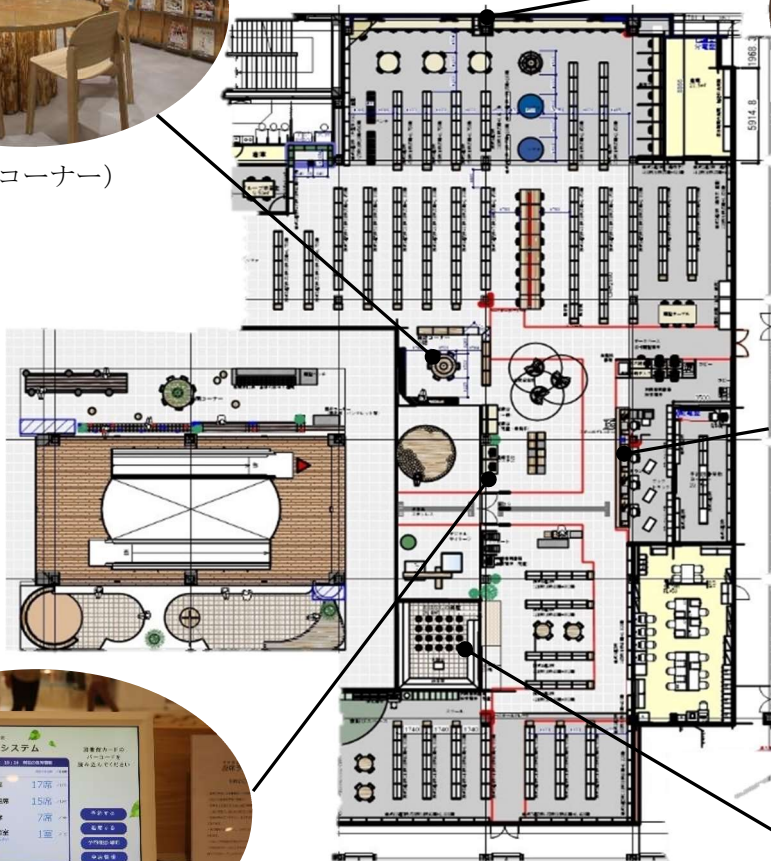
今後、訪れる様々な方にとって居心地がよいと感じられる図書館を目指せるよう努めてまいります。



(雑誌コーナー)



(カウンター席と閲覧席)



(受付カウンター)



(座席予約システム)



(おはなしの部屋)

ートイレ改修工事・ダンパー交換工事ー

中央図書館2号館1階のトイレ改修を行い、レイアウト変更により多目的トイレの利用をしやすくし、便器の洋式化・洗浄機能を付けた。(2/18~7/11)
また、中央図書館の制振用オイルダンパーの不適合が判明し、メーカーの責任により交換工事を行った。
(6/3~8/2) (総務課担当係長・秋定)

ービジネス支援イベント・「五色塚古墳」展示・「神戸セレクション」講演会の開催ー

中央図書館では、さまざまな連携によるイベントを開催した。日本政策金融公庫と、2月26日にビジネス支援講演会「起業(ゆめ)を形に2021」、1月30日~2月末に展示「創業する前に知っておきたいこと」を開催。5月11日~6月2日の文化財課による展示「五色塚古墳を知ろう!」では、パネルのほか、埴輪等も展示。7月15日には神戸市産業振興財団と2回めの「神戸セレクション」講演会を開催し、(株)美人ぬか本舗、六甲バター(株)にご講演いただいた。いずれも好評であった。(調査相談係長・榎井)

ーコロナ禍の図書館の対応(~7月31日)ー

今年度に入り4月25日に緊急事態宣言が発出された。(6月20日まで)その間、臨時休館は行わず、密にならない対応として、サービスの一部(座席や閲覧室・自習室の利用、当日の新聞や雑誌最新号の閲覧、対面レファレンス、一部を除く相互貸借サービス、視聴覚サービス、対面朗読やお話会等参加型行事のサービス等)を制限し、蔵書点検も計画通り実施した。また、宣言解除後すぐに、まん延防止等重点措置期間(6月21日~7月11日まで)となり、今年度の緊急事態宣言前の状態までサービスを戻した。これらの間、予約本の取置き期間の延長を行ったため、その対応に追われたが、制限をしながらも開館できたため、混乱は少なかった。

(市民サービス係長・棟安)

ー新型コロナワクチン接種申込お助け隊配置(中央、東灘、灘、兵庫図書館)ー

4月27日(火)~5月16日(日)まで、上記の図書館のエントランスに、健康局が派遣する学生が待機し、高齢者のワクチン接種申込みを手伝った。孫の年齢の学生に手伝ってもらうことを喜んでいただいていたが、他の配置場所と比して利用者が少なかったこと、当該図書館が蔵書点検期間に入るため、図書館での設置は当初予定より短い期間で終了した。

(総務課長・鎌田)

ー神戸市電子図書館貸出・予約冊数の変更ー

6月1日より「神戸市電子図書館」の貸出冊数を2冊から3冊に、予約冊数を1冊から3冊にそれぞれ

変更した。本年1月5日の運用開始後数か月を経て、当初の集中利用の一段落を見ての実施となった。

(総務課担当係長・西山)

ー手帳ー

人事 3.31 退職

内 藤 利 幸 総務課長

4.1 人事異動 ()は異動先

鎌 田 寛 子 (総務課長)

村 井 博 之 (総務課担当課長)

福 永 直 子 (総務課担当係長)

棟 安 陽 子 (利用サービス課市民サービス係長)

小 椋 あゆみ (利用サービス課資料係長)

4.20 人事異動

松 尾 宗一郎 (総務課企画情報担当)

堀 口 尚 之 (利用サービス課市民サービス係)

乾 あさ子 (利用サービス課市民サービス係)

藤 澤 清 隆 (利用サービス課調査相談係)

竹 中 晴 香 (利用サービス課調査相談係)

転入

土 居 真 紀 (総務課総務担当)

平 野 和 (総務課企画情報担当)

瀬 瀬 文 佳 (利用サービス課調査相談係)

転出

萩 庭 恵 美 (教育委員会事務局教育部教科指導課)
兼務発令

三 木 彩 香 (文化スポーツ局文化交流課)

5.17 人事異動

転入

林 泰 三 (中央図書館長)

転出

岡 田 宏 二 (健康局担当局長:(ワクチン接種担当))

会議 2.22/3.23/6.21/7.5 経済港湾員会

3.10 予算特別委員会(局別審査)

3.11 中央図書館職員安全衛生委員会

5.21 全国公共図書館協議会理事会
(オンライン会議)欠席

6.30 兵庫県図書館協会理事会・総会

7.21 近畿公共図書館協議会第1回理事会

研修 1.27~1.29 文部科学省地区別研修(滋賀)
ZOOM配信も実施・・・参加者なし

その他 1.17 非常招集訓練

2.18 消防訓練

3.19、3.20 名谷図書館内覧会

6.17 中央図書館喫茶「JUN」退店

6.20、7.14 神戸市職員(司書)採用試験